

問題64

基本
★★★★☆

連結財務諸表の意義

次に示す文章の空欄に、適語を補充しなさい。

連結財務諸表とは、(1) 関係にある2つ以上の会社からなる (2) を単一の組織体とみなして、(2) の (3) ・ (4) ・ (5) を総合的に報告するために (6) が作成する財務諸表である。

(1)	(2)	(3)
(4)	(5)	(6)

問題65

基本
★★★★☆

子会社の範囲

次の文章は、連結の範囲に含まれる子会社の判定基準を示している。文章中の「他の企業」が子会社となるように空欄に適語を補充しなさい。なお、同じ語句を2回以上使用してもよい。

- 他の企業の (1) の過半数を (2) に所有している場合。
- 他の企業に対する (3) の所有割合が50%以下であっても、高い比率の (3) を有しており、かつ当該会社の (4) を支配している一定の事実が認められる場合。

(1)	(2)	(3)
(4)		

問題66

基本
★★★★☆

連結財務諸表の種類

次の資料にもとづき、()内の金額を示しなさい。

資料

- 連結財務諸表(単位:円)

I 売上高	5,000,000
II 売上原価	(a)
売上総利益	(b)
III 販売費及び一般管理費	500,000
営業利益	(c)
IV 営業外収益	450,000
V 営業外費用	350,000
経常利益	(d)
VI 特別利益	200,000
VII 特別損失	100,000
税金等調整前当期純利益	(e)
法人税、住民税及び事業税	600,000
少数株主損益調整前当期純利益	(f)
少数株主利益	100,000
当期純利益	(g)

資本金当期末残高(h)	資本金当期首残高	1,400,000	
資本剰余金当期末残高(i)	資本剰余金当期首残高	150,000	
剰余金の配当	300,000	利益剰余金当期首残高	500,000
利益剰余金当期末残高(k)		当期純利益(j)	
少数株主持分当期末残高	150,000	少数株主持分当期首残高(l)	
		少数株主持分当期変動額	70,000

(資産の部)		(負債の部)		
I 流動資産	2,500,000	I 流動負債	800,000	
II 固定資産	1,500,000	II 固定負債	1,000,000	
III 繰延資産	200,000	(純資産の部)		
		I 株主資本		
		1 資本金(m)		
		2 資本剰余金		150,000
		3 利益剰余金(n)		
		II 少数株主持分		150,000
		4,200,000		4,200,000

- 原価率は70%であった。

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j
k	l	m	n	

問題 67

基本

支配獲得日の資本連結

問1. 次の文章の空欄に適語を記入して文章を完成させなさい。

親会社から子会社に対する投資は、連結ベースで見ると、企業グループ内部における資金移動に過ぎない。そこで (1) を作成するにあたって、(2) と (3) を相殺する必要があり、この (2) と (3) の相殺を (4) という。

問2. 次の資料にもとづき、連結貸借対照表を作成するにあたって必要な連結修正仕訳を示し、連結貸借対照表を作成しなさい。

資料

P社貸借対照表		S社貸借対照表	
X1年3月31日 (単位: 千円)		X1年3月31日 (単位: 千円)	
諸資産	850,000	諸負債	500,000
S社株式	150,000	資本金	200,000
		利益剰余金	300,000
	1,000,000		500,000
		資本金	100,000
		利益剰余金	50,000
			500,000

P社はX1年3月31日にS社発行済株式の全部を150,000千円で取得し支配した。なお、P社・S社とも会計期間は4月1日から3月31日までであり、X1年3月31日においてS社の諸資産および諸負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

問1.

(1)	(2)	(3)
(4)		

問2.

(単位: 千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

連結貸借対照表

X1年3月31日 (単位: 千円)

諸資産	()	諸負債	()
		資本金	()
		利益剰余金	()
	()		()

問題 68

基本

資産・負債の評価替え1

P社はX1年3月31日にS社の発行済株式の全部を160,000千円で取得し支配した。これに際してP社とS社の資産および負債の時価を評価したところ、以下の事実が判明した。このとき、次の資料にもとづき、連結貸借対照表を作成するにあたって必要となる評価替えのための仕訳および連結貸借対照表を示しなさい。なお、税効果会計は考慮しない。

	簿価	時価
(P社)土地	100,000千円	80,000千円
(S社)土地	40,000千円	80,000千円

資料

P社貸借対照表		S社貸借対照表	
X1年3月31日 (単位: 千円)		X1年3月31日 (単位: 千円)	
現金預金	140,000	現金預金	180,000
備品	100,000	借入金	100,000
土地	100,000	土地	40,000
S社株式	160,000	資本金	250,000
		資本剰余金	100,000
		利益剰余金	50,000
	500,000		220,000
			220,000

(単位: 千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

連結貸借対照表

X1年3月31日 (単位: 千円)

現金預金	()	借入金	()
備品	()	資本金	()
土地	()	資本剰余金	()
	()	利益剰余金	()
	()		()

資産・負債の評価替え2

次の資料にもとづき、連結貸借対照表の作成にあたって必要な(1)評価替えの仕訳、(2)資本連結の仕訳を示しなさい。なお、税効果会計を適用し、税率は40%とする。

■資料■

諸 資 産	50,000	諸 負 債	30,000
		資 本 金	5,000
		資 本 剰 余 金	8,000
		利 益 剰 余 金	7,000
	50,000		50,000

- P社はX3年3月31日にS社の発行済株式のすべてを20,600千円で取得し支配した。
- X3年3月31日時点でS社の資産および負債につき、時価評価を行ったところ、諸資産のうち土地(簿価4,000千円)の時価が5,000千円であることが判明した。

(単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

のれんの処理1

P社はX1年3月31日に発行済株式総数10,000株のS社の株式のすべてを取得し支配した。X1年3月31日は、S社の決算日であり、かつ、P社の決算日でもある。なお、決算日にS社の資産を時価で評価したところ、土地の時価が簿価より5,000千円上昇していることが判明した。そこで、両社の貸借対照表にもとづき以下の各問に答えなさい。

■資料■

諸 資 産	1,000,000	諸 負 債	450,000
		資 本 金	400,000
		資 本 剰 余 金	100,000
		利 益 剰 余 金	50,000
	1,000,000		1,000,000

諸 資 産	300,000	諸 負 債	150,000
		資 本 金	100,000
		資 本 剰 余 金	30,000
		利 益 剰 余 金	20,000
	300,000		300,000

(注) S社株式は諸資産に含まれている。

- 土地の評価替えのための仕訳を示しなさい。
- S社株式を170,000千円で取得した場合の連結修正仕訳(S社株式勘定を用いること。以下同じ)を示し、連結貸借対照表を作成しなさい。
- S社株式を130,000千円で取得した場合の連結修正仕訳を示し、連結貸借対照表を作成しなさい。

問1.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	1,135,000	諸負債	()
[]	()	[]	()
		資本金	()
		資本剰余金	()
		利益剰余金	()
	()		()

(注)不要な空欄はそのままにしておくこと。

問3.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	1,175,000	諸負債	()
[]	()	[]	()
		資本金	()
		資本剰余金	()
		利益剰余金	()
	()		()

(注)不要な空欄はそのままにしておくこと。

問題71
基本
★★★★☆

のれんの処理2

P社はX1年3月31日にS社発行済株式総数の全部を350,000円で取得し、支配した。P社・S社ともに決算日は3月31日である。S社のX1年3月31日現在の貸借対照表は次のとおりである。

貸借対照表

(単位：円)

諸資産	518,000	諸負債	190,000
		資本金	250,000
		資本剰余金	38,000
		利益剰余金	40,000
	518,000		518,000

また、諸資産を時価で評価したところ、土地が108,000円(簿価100,000円)であった。その他の諸資産・諸負債の時価は帳簿価額と等しい。

よって、X1年3月31日における(1)評価替えのための仕訳および(2)連結修正仕訳(S社株式勘定を使用すること)を示しなさい。なお、実効税率を40%とする税効果会計を適用する。

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

問題72
基本
★★★★☆

部分所有の資本連結の基礎知識

次に示す手続きの流れは、資本連結を示している。空欄を補充し、手続きを完成させなさい。ただし、親会社による子会社株式の所有割合は100%未満とする。

- (1) の貸借対照表の資産と負債を (2) に評価替える。
- 子会社の資本を株式の持分比率により、(3) の持分と (4) の持分とに分ける。
- 親会社の持分を、親会社の (5) 勘定と相殺する。
- 親会社以外の子株主の持分を、(6) 勘定に振り替える。

(1)	(2)	(3)
(4)	(5)	(6)

問題73
基本
★★★★☆

部分所有子会社の処理 1

P社は、X1年3月31日にS社発行済株式の55%を22,000千円で取得し支配した。以下の資料を参考にして各問に答えなさい。

■資料■

1. P社の貸借対照表

諸資産	308,000	諸負債	180,000
S社株式	22,000	資本金	100,000
		資本剰余金	30,000
		利益剰余金	20,000
	330,000		330,000

2. S社の貸借対照表

諸資産	100,000	諸負債	60,000
		資本金	28,000
		資本剰余金	7,000
		利益剰余金	5,000
	100,000		100,000

3. X1年3月31日において、S社の諸資産および諸負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

問1. P社が行うべき連結修正仕訳を示しなさい。

問2. P社グループの連結貸借対照表を作成しなさい。

問1.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2.

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	()	諸負債	()
		資本金	()
		資本剰余金	()
		利益剰余金	()
		[]	()
	()		()

問題74
基本
★★★★☆

部分所有子会社の処理 2

P社は、X1年3月31日にS社発行済株式の75%を37,500千円で取得し支配した。次の資料にもとづき、連結修正仕訳を示し、連結貸借対照表を作成しなさい。

■資料■

1. 貸借対照表

貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

借方	P社	S社	貸方	P社	S社
諸資産	107,500	75,000	諸負債	70,000	35,000
S社株式	37,500		資本金	50,000	20,000
			資本剰余金	15,000	10,000
			利益剰余金	10,000	10,000
計	145,000	75,000	計	145,000	75,000

2. X1年3月31日においてS社の諸資産および諸負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	()	諸負債	()
[]	()	資本金	()
		資本剰余金	()
		利益剰余金	()
		[]	()
	()		()

問題75
基本
★★★★★

部分所有子会社の処理3

P社はX2年3月31日にS社発行済株式の80%を370,000円で取得し支配した。そのときのS社の貸借対照表は次のとおりである。以下の各問に答えなさい。

S社貸借対照表

X2年3月31日

(単位：円)

諸資産	800,000	諸負債	400,000
		資本金	300,000
		利益剰余金	100,000
	800,000		800,000

(注) X2年3月31日においてS社の諸資産の時価は850,000円である。

問1. 評価替えのための仕訳を示しなさい。

問2. 連結修正仕訳を示しなさい。なお、評価替えのための仕訳は不要とする(問4も同様)。

問3. 評価替えのための仕訳を示しなさい。なお、税効果会計を適用し、税率は40%とする。

問4. 連結修正仕訳を示しなさい。なお、税効果会計を適用し、税率は40%とする。

問1.

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2.

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問3.

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問4.

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

段階取得の処理

P社のS社株式の取得状況は次のとおりである（会計期間はP社・S社ともに4月1日から3月31日までの1年）。そこで全面時価評価法による場合のX10年3月期の連結修正仕訳を示しなさい（子会社時価評価替えに係る仕訳は含めない）。なお、税効果会計を適用し、税率は40%とする。

■資料■

取得日	取得原価	取得比率
X9年3月31日	17,000円	10%（その他有価証券として保有）
X10年3月31日	90,000円	50%（1%当たりの時価：1,800円）

S社のX8年度末、X9年度末における個別財務諸表は次のとおりである。

貸借対照表			貸借対照表		
S社	X9年3月31日	(単位：円)	S社	X10年3月31日	(単位：円)
諸資産	320,000	諸負債	250,000	諸資産	335,000
土地	80,000	資本金	100,000	土地	80,000
		利益剰余金	50,000		
	400,000		400,000		415,000
					415,000

(注1) 土地について評価替えを行う。X8年度末の土地の時価は82,000円、X9年度末の土地の時価は82,500円であった。なお、土地以外の諸資産、諸負債についてはX8年度末、X9年度末において帳簿価額と時価は一致している。

(注2) のれんの償却は発生の翌年から20年間で均等償却を行う。

(注3) S社は設立以来、無配当政策を採用している。

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

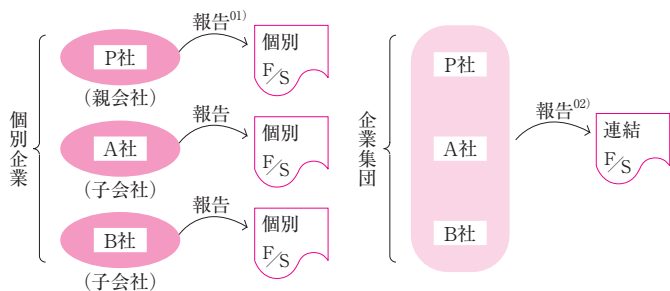
問題64 連結財務諸表の意義

解答

(1) 支配従属	(2) 企業集団	(3) 財政状態
(4) 経営成績	(5) キャッシュ・フローの状況	(6) 親会社

解説

連結財務諸表と個別財務諸表の違いについて確認します。



- 01) P社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況を報告します。
 02) P社、A社、B社から成る企業集団の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況を報告します。

問題65 子会社の範囲

解答

(1) 議決権	(2) 実質的	(3) 議決権
(4) 意思決定機関		

解説

連結の範囲に含める子会社の判定基準としては、実質的な支配関係の有無にもとづいて判定する支配力基準が用いられます。

ただし、支配が一時的と認められる会社、連結することにより利害関係者の判断を著しく誤らせるおそれのある会社は、連結の範囲から除かれることになります。また、重要性の乏しい子会社は連結の範囲から除外することができます。

問題66 連結財務諸表の種類

解答

a	3,500,000	b	1,500,000	c	1,000,000	d	1,100,000	e	1,200,000
f	600,000	g	500,000	h	1,400,000	i	150,000	j	500,000
k	700,000	l	80,000	m	1,400,000	n	700,000		

解説

連結損益計算書→連結株主資本等変動計算書⁰¹⁾→連結貸借対照表の順に求めていきます。

- a : 5,000,000円 × 0.7 = 3,500,000円
 j : 連結損益計算書の当期純利益(g)を振り替えます。
 n : 連結株主資本等変動計算書の利益剰余金当期末残高(k)を振り替えます。

01) 連結S/Sは、連結P/Lと連結B/Sをつなぐ重要な役割をもちます。

問題67 支配獲得日の資本連結

解答

問1.

(1) 連結貸借対照表 ⁰¹⁾	(2) 親会社の投資 ⁰¹⁾	(3) 子会社の資本 ⁰¹⁾
(4) 資本連結		

01)(1)は連結財務諸表でも可。(2)と(3)は順不同。

問2.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	100,000	S社株式	150,000
利益剰余金	50,000		

連結貸借対照表

×1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	(1,350,000)	諸負債	(850,000)
		資本金	(200,000)
		利益剰余金	(300,000)
	(1,350,000)		(1,350,000)

解説

問1. 資本連結

親会社から子会社に対する投資は、連結ベースで見ると、企業グループ内部における資金移動に過ぎない。そこで「**連結貸借対照表**」を作成するにあたって、「**親会社の投資**」と「**子会社の資本**」を相殺する必要があり、この「**親会社の投資**」と「**子会社の資本**」の相殺を「**資本連結**」という。

問2. 資本連結の修正仕訳

親会社の投資勘定（S社株式）と子会社の資本（資本金と利益剰余金）の相殺処理（資本連結）を行います。

〈連結貸借対照表の作成〉

諸資産：850,000千円 + 500,000千円 = **1,350,000**千円

諸負債：500,000千円 + 350,000千円 = **850,000**千円

資本金：200,000千円 + 100,000千円 - 100,000千円 = **200,000**千円

利益剰余金：300,000千円 + 50,000千円 - 50,000千円 = **300,000**千円

問題68 資産・負債の評価替え1

解答

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
土地	40,000	評価差額	40,000

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

現金預金	(320,000)	借入金	(200,000)
備品	(100,000)	資本金	(250,000)
土地	(180,000)	資本剰余金	(100,000)
		利益剰余金	(50,000)
	(600,000)		(600,000)

解説

1. 評価替えの仕訳

子会社の資産と負債につき時価評価し、評価替えを行います⁰¹⁾。

評価差額 = $\frac{80,000 \text{千円} - 40,000 \text{千円}}{\text{時価} \quad \text{簿価}} = 40,000$ 千円

2. 連結貸借対照表の作成

連結貸借対照表を作成するために必要な連結修正仕訳は以下のとおりです。

(単位：千円)

(資本金)	100,000	(S社株式)	160,000
(利益剰余金)	20,000		
(評価差額)	40,000		

01) 親会社の資産と負債については評価替えは行いません。

問題69 資産・負債の評価替え2

解答

(単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	諸資産	1,000 ⁰¹⁾	繰延税金負債	400 ⁰²⁾
			評価差額	600
(2)	資本金	5,000	S社株式	20,600
	資本剰余金	8,000		
	利益剰余金	7,000		
	評価差額	600		

01) 5,000千円 - 4,000千円 = 1,000千円
02) 1,000千円 × 40% = 400千円

解説

税効果会計を適用する場合、税金相当額を控除した額を評価差額として計上します。なお、このとき生じる繰延税金資産・負債は子会社に帰属します。

問題70 のれんの処理1

解答

問1.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
諸資産	5,000	評価差額	5,000

問2.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	100,000	S社株式	170,000
資本剰余金	30,000		
利益剰余金	20,000		
評価差額	5,000		
のれん	15,000		

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	1,135,000	諸負債	(600,000)
〔のれん〕	(15,000)	[]	()
		資本金	(400,000)
		資本剰余金	(100,000)
		利益剰余金	(50,000)
	(1,150,000)		(1,150,000)

問3.

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	100,000	S社株式	130,000
資本剰余金	30,000	負のれん発生益	25,000
利益剰余金	20,000		
評価差額	5,000		

連結貸借対照表

X1年3月31日

(単位：千円)

諸資産	金額	諸負債	金額
()	()	()	()
		資本金	(400,000)
		資本剰余金	(100,000)
		利益剰余金	(75,000)
	(1,175,000)		(1,175,000)

解説

問2. 親会社の投資 (S社株式) > 子会社の資本の場合

$$170,000 \text{千円} - (100,000 \text{千円} + 30,000 \text{千円} + 20,000 \text{千円} + 5,000 \text{千円})$$

S社株式
資本金
資本剰余金
利益剰余金
評価差額

= 15,000 千円(借方 のれん)

問3. 親会社の投資 (S社株式) < 子会社の資本の場合

$$130,000 \text{千円} - (100,000 \text{千円} + 30,000 \text{千円} + 20,000 \text{千円} + 5,000 \text{千円})$$

S社株式
資本金
資本剰余金
利益剰余金
評価差額

= △25,000 千円(貸方 負のれん発生益)⁰¹⁾

01) 負のれん発生益の分だけ、連結貸借対照表上の利益剰余金の金額を増加させます。

問題71 のれんの処理2

解答

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	諸資産	8,000	繰延税金負債	3,200
			評価差額	4,800
(2)	資本金	250,000	S社株式	350,000
	資本剰余金	38,000		
	利益剰余金	40,000		
	評価差額	4,800		
	のれん	17,200		

解説

1. 評価替えの処理

税効果会計を実効税率40%で適用します。

$$\text{繰延税金負債} = (\underbrace{108,000 \text{円}}_{\text{時価}} - \underbrace{100,000 \text{円}}_{\text{簿価}}) \times \underbrace{40\%}_{\text{税率}} = 3,200$$

$$\text{評価差額} = (108,000 \text{円} - 100,000 \text{円}) \times (1 - 40\%) = 4,800 \text{円}$$

2. 投資と資本の相殺消去

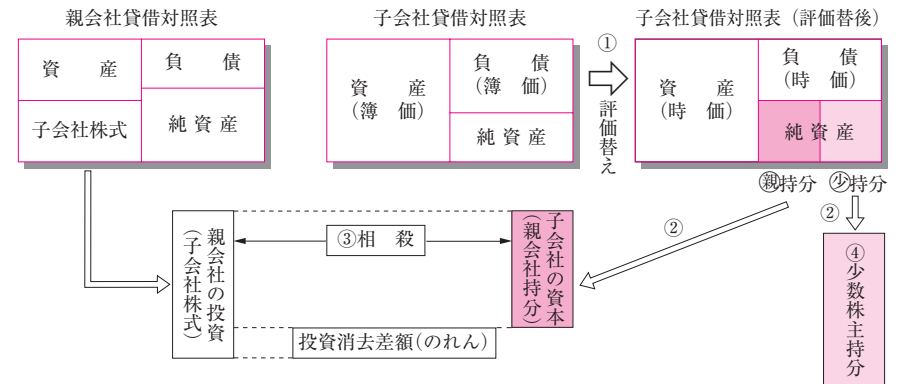
$$\text{のれん} = \underbrace{350,000 \text{円}}_{\text{S社株式}} - (\underbrace{250,000 \text{円}}_{\text{資本金}} + \underbrace{38,000 \text{円}}_{\text{資本剰余金}} + \underbrace{40,000 \text{円}}_{\text{利益剰余金}} + \underbrace{4,800 \text{円}}_{\text{評価差額}}) = 17,200$$

問題72 部分所有の資本連結の基礎知識

解答

(1) 子会社	(2) 時価	(3) 親会社
(4) 少数株主	(5) 投資	(6) 少数株主持分

解説



問題73 部分所有子会社の処理 1

解答

問1. (単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	28,000	S社株式	22,000
資本剰余金	7,000	少数株主持分	18,000 ⁰¹⁾
利益剰余金	5,000		

01) $40,000 \text{千円} \times (1 - 0.55)$
 $S \text{社純資産} \times \text{少数株主持分割合}$
 $= 18,000 \text{千円}$

問2.

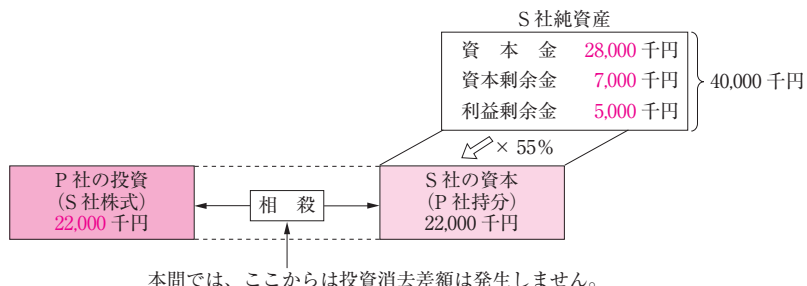
連結貸借対照表

×1年3月31日 (単位：千円)

諸資産	金額	諸負債	金額
(408,000)		(240,000)	
		資本金 (100,000)	
		資本剰余金 (30,000)	
		利益剰余金 (20,000)	
		[少数株主持分] (18,000)	
(408,000)		(408,000)	

解説

本問は投資消去差額が生じない場合の部分所有の資本連結です。本問を図示すると次のようになります。



問題74 部分所有子会社の処理 2

解答

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	20,000	S社株式	37,500
資本剰余金	10,000	少数株主持分	10,000 ⁰¹⁾
利益剰余金	10,000		
のれん	7,500 ⁰²⁾		

01) $40,000 \text{千円} \times (1 - 0.75)$
 $S \text{社純資産} \times \text{少数株主持分割合}$
 $= 10,000 \text{千円}$

02) $37,500 \text{千円}$
 $- 40,000 \text{千円} \times 0.75$
 親会社持分
 $= 7,500 \text{千円}$

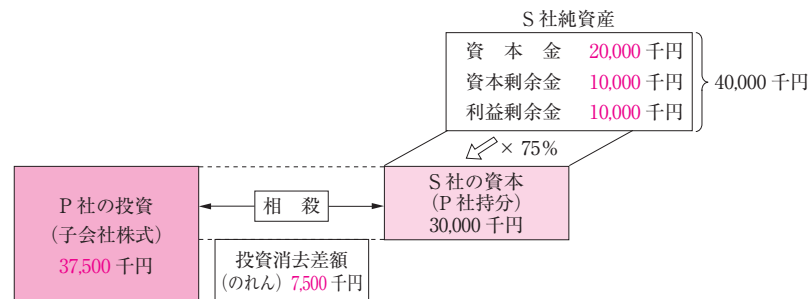
連結貸借対照表

×1年3月31日 (単位：千円)

諸資産	金額	諸負債	金額
(182,500)		(105,000)	
[のれん] (7,500)		資本金 (50,000)	
		資本剰余金 (15,000)	
		利益剰余金 (10,000)	
		[少数株主持分] (10,000)	
(190,000)		(190,000)	

解説

本問は投資消去差額が生じる場合の部分所有の資本連結です。本問を図示すると次のようになります。



問題75 部分所有子会社の処理 3

解答

問1. (単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
諸資産	50,000	評価差額	50,000

問2. (単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	300,000	S社株式	370,000
利益剰余金	100,000	少数株主持分	90,000
評価差額	50,000		
のれん	10,000		

問3. (単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
諸資産	50,000	繰延税金負債	20,000
		評価差額	30,000

問4. (単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	300,000	S社株式	370,000
利益剰余金	100,000	少数株主持分	86,000
評価差額	30,000		
のれん	26,000		

解説

問1. 子会社の諸資産につき、簿価と時価が一致しないので評価替えを行います。

$$\frac{850,000 \text{円}}{\text{時価}} - \frac{800,000 \text{円}}{\text{簿価}} = 50,000 \text{円}$$

問2.

①少数株主持分

$$\left(\frac{300,000 \text{円}}{\text{資本金}} + \frac{100,000 \text{円}}{\text{利益剰余金}} + \frac{50,000 \text{円}}{\text{評価差額}} \right) \times 20\% = 90,000 \text{円}$$

②のれん⁰¹⁾

$$\frac{370,000 \text{円}}{\text{S社株式}} - \left\{ \left(\frac{300,000 \text{円}}{\text{資本金}} + \frac{100,000 \text{円}}{\text{利益剰余金}} + \frac{50,000 \text{円}}{\text{評価差額}} \right) \times 80\% \right\} = 10,000 \text{円(のれん)}$$

01)のれんは差額で求めるのが普通ですが、検算のためにも計算できるようにしておいたほうがよいでしょう。

問3.

問1. に税効果会計を税率40%で適用します。

$$\cdot \frac{\text{繰延税金負債}(850,000 \text{円} - 800,000 \text{円}) \times 40\%}{\text{子会社・固定負債}} = 20,000 \text{円}$$

$$\cdot \frac{\text{評価差額}(850,000 \text{円} - 800,000 \text{円}) \times (1 - 40\%)}{\text{時価}} = 30,000 \text{円}$$

問4.

①少数株主持分

$$\left(\frac{300,000 \text{円}}{\text{資本金}} + \frac{100,000 \text{円}}{\text{利益剰余金}} + \frac{30,000 \text{円}}{\text{評価差額}} \right) \times 20\% = 86,000 \text{円}$$

②のれん

$$\frac{370,000 \text{円}}{\text{S社株式}} - \left\{ \left(\frac{300,000 \text{円}}{\text{資本金}} + \frac{100,000 \text{円}}{\text{利益剰余金}} + \frac{30,000 \text{円}}{\text{評価差額}} \right) \times 80\% \right\} = 26,000 \text{円}$$

問題76 段階取得の処理

解答

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
S社株式	1,000	段階取得に係る差益	1,000
資本金	100,000	S社株式	108,000
利益剰余金	55,000	少数株主持分	62,600
評価差額	1,500		
のれん	14,100		

解説

支配獲得日に子会社の資産および負債のすべてについて時価評価し、さらにS社株式を時価評価し、それにもとづいて資本連結を行います。

(1) 子会社の評価替え

(土地)	2,500 ⁰¹⁾	(繰延税金負債)	1,000 ⁰²⁾
		子会社・固定負債	
		(評価差額)	1,500 ⁰³⁾

$$01) \frac{82,500 \text{円} - 80,000 \text{円}}{\text{時価}} = 2,500 \text{円}$$

(2) 連結修正仕訳

① S社株式の時価評価に係る仕訳

(S社株式)	1,000 ⁰⁴⁾	(段階取得に係る差益)	1,000
		利益剰余金	

$$02) 2,500 \text{円} \times 40\% \text{税率} = 1,000 \text{円}$$

② 投資と資本の相殺消去

(資本金)	100,000	(S社株式)	108,000
(利益剰余金)	55,000	(少数株主持分)	62,600 ⁰⁶⁾
(評価差額)	1,500		
(のれん)	14,100 ⁰⁵⁾		

$$03) 2,500 \text{円} \times (1 - 40\% \text{税率}) = 1,500 \text{円}$$

$$04) (@ 1,800 \text{円} \times 10) - 17,000 \text{円} = 1,000 \text{円}$$

$$05) 108,000 \text{円} - 156,500 \text{円} \times 60\% = 14,100 \text{円}$$

$$06) 156,500 \text{円} \times 40\% \text{少持分} = 62,600 \text{円}$$